

平成29年度 県土整備委員会 県外視察報告書

1 参加者

元木章生（委員長）、喜多宏思（副委員長）、岸本泰治、須見一仁、重清佳之、眞貝浩司、黒崎章、達田良子、古川広志

2 視察日程及び視察箇所

視察日程	視 察 箇 所
9月5日（火）	東京都庁（東京都新宿区）
	東日本高速道路(株)千葉管理事務所（千葉県千葉市）
	茨城県立カシマサッカースタジアム（茨城県鹿嶋市）
9月6日（水）	日本科学未来館（東京都江東区）

3 調査目的及び視察概要

（1）東京都

（調査目的）

本県では、南海トラフ巨大地震の発生の切迫性が指摘されており、大規模災害発生時においては、被害を最小限に抑えるため、発災直後の組織体制、自衛隊や警察、消防等の連携が不可欠であると考えられる。

また、近年頻発する豪雨による洪水や土砂崩れ等の風水害に対しても、自治体の初動体制の重要性が問題となっていると考えられる。

そこで、東京都における、首都直下型地震や洪水等の風水害等の危機事象に対して、初動体制や他の自治体との連携体制等の調査を行う。

（視察概要）

東京都の危機管理体制について説明を受けました。



（2）東日本高速道路(株)千葉管理事務所

（調査内容）

本県では、四国8の字ネットワークを形成し、経済、産業の発展はもとより、災害時の緊急輸送道路となる四国横断自動車道の整備促進に取り組んでいる。

このうち、小松島インターチェンジから阿南インターチェンジ間の一層の整備促進に向け、県が立江・櫛淵地区に地域活性化インターチェンジの設置に向けた検討

を進めている。

そこで、成田空港へのアクセス向上，地域施設や近隣商業施設との連携を目的に地域活性化インターチェンジ制度を活用し設置された，酒々井インターチェンジの調査を行う。

(視察概要)

東日本高速道路株式会社が設置した，酒々井インターチェンジ及び千葉管理事務所の取組について説明を受けました。



(3) 茨城県立カシマサッカースタジアム

(調査内容)

鳴門総合運動公園や南部健康運動公園の陸上競技場では，今後，芝生の更新や敷設を予定しているが，ライン際やゴールエリア付近の摩耗が激しい箇所の部分的な補修の対応に苦慮している。

そこで，摩耗の激しいエリアの芝生回復について，LEDを使った天然芝の生長を促す照明装置を使用し，フィールド全体の芝生の均等化を図った，カシマサッカースタジアムの調査を行う。

(視察概要)

茨城県立カシマサッカースタジアムの概要及び天然芝の通年発芽に関する取組について説明を受けた後，当該施設の視察を行いました。



(4) 日本科学未来館

(調査内容)

近年、自然エネルギーの導入拡大が強く求められる中、企業局においては川口ダム自然エネルギーミュージアムを核とした、スマート回廊地域創生事業を実施している。

本事業では、自然エネルギーの大切さや最先端の技術を、次代を担う、子供たちに学んでもらい、未来を切りひらく人材を育成することとしている。

この川口ダム自然エネルギーミュージアムが一過性でなく将来にわたり、最先端の技術や情報をタイムリーに提供するとともに科学技術をわかりやすく伝えるため企業局が連携・協力を行っている、日本科学未来館の調査を行う。

(視察概要)

日本科学未来館の取組及び徳島県との連携事業について説明を受けた後、当該施設の視察を行いました。

